アルビオン

秋田県藤里町と包括連携協定を締結

アルビオンは7月31日、秋田県の最北端に位置し、ブナの原生林からなる世界遺産「白神山地」の里として知られる秋田県藤里町（佐々木文明町長）と包括連携協定を締結した。

協定締結を機に、これまで以上に秋田県、藤里町の活性化に貢献するとともに、化粧品原料となり得る植物の探索・開発を進めていく。

同社では原料となる植物の研究を進めていく中、良質な水との出会いから2010年に、藤里町にて閉園した保育園を借り受け、植物に特化した原料の開発・基礎研究と化粧品原料となる植物の自社栽培を行う「白神研究所」を設立。ヨモギやマロウなど約45種類の植物を栽培し、化粧品専門店ブランド「イグニス」などで商品化している。2016年には、専用の実験室や植物洗浄室、乾燥室を完備した新研究棟を建設、圃場も2万7000㎡まで拡大するなど、順調に活動を行っている。

開所当時から藤里町と連携して活動を行ってきたが、包括連携協定へと取り組みを深化させることにより、地域文化の共有、白神ブランドの振興、防災・災害対策、技術連携、環境保全、人材の交流・養成等など、地域の活性化、地域産業の発展に貢献していく。

ヨモギ畑

マロウ

ショールーム併設し新オフィスに移転

ツバキスタイル

容器メーカーのツバキスタイルは、8月25日にオフィスを移転し、新たにショールームを併設したオフィスを開設する。

ショールームはカフェのような空間で、「見る楽しさ」「選ぶ楽しさ」「組み合わせる楽しさ」を提案する。

事前に予約すれば誰でも見学が可能で、ショールームに展示してある容器は、在庫があればその場で1本からでも購入できる。将来的には、ECサイトをオープンして一般消費者も利用できるようにしていく。

ショールームの開設と容器の販売について、藤村太郎社長は「当社は受注生産なので、これまで1000本以下のロットはお断りしていた。しかし、ホームページから単品販売のお問い合わせを多くいただいており、当社の詰め替え容器も好調なことから、在庫があれば1本から対応することにした。ホームページもリニューアルし、容器の在庫を確認できるようにする」としている。

〈新オフィス〉

新住所＝〒101－0047東京都千代田区内神田1－2－10羽衣ビル1階▽電話＝03－5283－8566▽FAX＝03－5283－8567

私の H＆B 日記

鏡窓の世界

屋内外問わず、人いるところにレンズあり。現代ほど写真（最近では動画）を撮る行為が日常化した時代はないだろう。しばしば笑顔で、時おり真剣な眼差しでレンズの先を見つめる。発明初期にはある種の芸術性とエンタテインメント性を両立させて人々を魅了し、小型化を軸にした技術革新によって生活の中の特別な一瞬や一時を切り取る極めてパーソナルかつメモリアルなツールとして普及したそれらは、ネットやSNSといったオープンなパブリックスペースを得て、生活を豊かにするために欠かせない役割へと昇華した。

観て何かを感じるという点において、これらを、芸術作品、こと写真と対峙する際の姿勢として命題とされる「（写真は）自分を映す鏡か、社会を見る窓か」との問いを持ち出すのは、次元が異なるものとして否定されるだろうか。写真を、自身に反映させる鏡として見るか、それとも自身の知らない世界が広がっている窓と見るか。鏡は過去を顧みるナルシシズム、そして、窓はまだ見ぬ未来を照らすアルトルイズム的なものの見方とも言える。

さて、身近な、あるいは好意を抱く人（ほぼ全ての投稿意思は人に帰結している）の写真や動画であればこそ、簡易な良し悪し評価機能によって見えにくくなっているが、常に鏡か窓かの命題を突きつけられているような状態にある」と、かのソローなら言うだろうか。埃のかぶった段ボール箱から発信して世界の誰かに突きつけたい衝動に駆られるのは理にかなっている。生活の一部として染みついた現代人は、鏡と窓の見方を器用に使い分け、「感動することに対して麻痺に思えてならない。無意識、無作為に下へスクロールしていく手を止め、見つめた一つの写真は、その瞬間、私に大きな力を加えたと言っていい。

だからこそ、自らも「森の生活」を引っ張りだして読みふけったのは、まぎれもなく、しかし、何気なく手を止めた投稿に感化されたナルシシズム的な行為であるとの自覚は一応ある。（菅）

鈴与

新静岡物流センターの営業開始

鈴与は7月12日に竣工した「新静岡物流センター」（静岡市葵区牛妻）の営業を8月21日に開始する。

敷地面積約1万5900㎡、4階建てで延床面積は約1万6900㎡に及ぶ。新東名高速道路新静岡ICから約2㎞、2019年に全線が開通予定の中部横断自動車道新清水JCTにも近く、清水港のコンテナヤードにも国道1号バイパス経由で約20㎞と好ロケーションにある。

柱を鉄筋コンクリート、梁は鉄骨造りの混合構造とし、柱間のスパンを広くとることでフレキシブルな物流動線を確保した。非常用発電設備により停電時にも物流機能を3日間維持できる体制を整えた。

LED照明や太陽光発電を取り入れ、建築物の省エネルギー性能の認証制度である「BELS」最高ランクの5STARを県内の物流施設として初めて取得している。